

News Letter VOL.04

発行/2019年6月25日 発行者/広島市植物公園植物友の会事務局 〒731-5156 広島市佐伯区倉重3-495 広島市植物公園内

平成31年度 植物友の会作品展 出品募集中！

6月も終盤になりましたが、好天が続いています。皆様のお手元に届くころには梅雨入りしているでしょうか？ちなみに、発行日時点では観測史上最も遅い梅雨入りの記録（昭和43年6月24日）を更新しています。

さて、友の会では9月に作品展を行います。ご自宅で育てられた山野草や趣味のクラフト・写真など、「植物」に関係するものであればジャンルは問いません。出品をお待ちしています。

植物友の会作品展

会期：令和元年9月7日（土）～15日（日）

場所：植物公園展示資料館1階展示室

* 出品についての詳細は同封の出品案内をご参照ください。



令和元年7月～9月 友の会ボランティアの募集日程

活動日	7月		8月		9月	
原則 第1・第3 火曜日 10:30～ 15:00	2日	16日	6日	20日	3日	17日
	大温室 バーク堆肥 施用・バッ クヤードの 鉢除草	除草等 (内容 未定)	なし(平 和記念日 のため)	オオオニバス 試乗体験 会補助	ハンギング バスケット 作成ほか	大温室 管理

★4月以降の管理ボランティアは、主に栽培・展示課の職員と一緒に作業します。

★当日参加も大歓迎です。作業準備のため、事前に参加表明いただけると助かります。展示資料館1階展示準備室のドアわきのスチール棚に申込票を貼っています。

★参加者は、入園料・駐車料金ともに免除です。
駐車場・入園口の2か所で会員証を提示して下さい。

★作業のできる動きやすい服装でお越しください
(軍手・手袋も持参ください)



5月28日 ハンギング鉢の作成

第1回野外観察会 [三景園] 報告 (6月16日開催)

令和初の野外観察会を広島県立中央森林公園 (三景園) で6月16日に開催しました。参加者は14名。講師として中央森林公園の設計に携わられた立花 宏二 先生 (IWAD環境福祉リハビリ専門学校) をお招きし、三景園・フォレストヒルズガーデンの庭園見学と植物観察を行いました。

三景園は、1993年に整備された築山池泉回遊式庭園で、厳島神社の回廊を想わせるデッキを抜けると、広大な水面と築山が一面に広がっています。一見、何気なく置かれている岩や植物ですが、それぞれテーマや修景デザインがあることを説明いただき、とても良い勉強になりました。同日は花まつり期間中で、フラダンス [ステージ中に土砂降りのにわか雨] やアジサイ・ハナショウブ [園路が今年の豪雨災害の復旧中] を見て歩き。ササユリ・オカトラノオ・クロガネモチ (樹齢200年の雄株)・クリの花とクスサン (栗を食草とする日本最大の蛾) などを観察できました。



ササユリの花



フォレストヒルズガーデン (バラ園)



講師の立花 宏二 先生 (IWAD環境福祉リハビリ専門学校)

第1回講習会 [苔玉づくり] 報告 (6月8日開催)

6月8日に苔玉づくりをテーマに講習会を開催しました。参加者は10名。ケト土と赤玉土で作った土ダンゴを植物の苗 (松かモミジ) に貼り付け、コケ玉に仕立てていきます。また、小品盆栽展を参考に、針金掛けも体験しました。皆さん、個性あふれる素敵なインテリア作品に仕上がりました。



講師の林 泰寛 先生 (はやし作園)



苔玉の整形 (土の貼り付け)



野菜や山野草の変わり苔玉

平成30年11月3日 快晴

瀬戸内海南西部の忽那（くつな）諸島、5島めぐりの船旅に参加してきました。5島とは愛媛県松山市沖の二神島、睦月島、北条鹿島、野忽那島、津和地島を言います。

当日は好天にも恵まれ、海は穏やかで最高の船旅であった。忽那諸島は安芸灘と伊予灘との間にあり、大小30近くの島からなり、全島が瀬戸内海国立公園で愛媛県松山市に属し、戦国時代は忽那氏が支配していた。産業は沿岸漁業のほか、ミカンなどの果樹栽培が盛んに行われている。瀬戸内海特有の温暖で、雨が少なく年間雨量は1300ミリで冬季は積雪もなく暮らし易い気候である。



広島港を出港し、まず向ったのは呉港の自衛隊の艦船を海上から見学、近くで見ると驚くほどの大きさにビックリ、戦艦大和の建造ドックを洋上から見学、続いて潜水艦の出港時に出合、艦船上に隊員が整列し敬礼している姿を見ることができた。この様子はめったに見ることが出来ないのので一同感動していた。

船は音戸の瀬戸に入り、朱塗りの音戸第一大橋、第二大橋を真下から眺めながら広い海域にでる。この辺りは遊漁船が数多く出ており船釣りのメッカとして知られた場所である。

遊漁船もさることながら、島から島へと行き来するフェリーが日用品や、島の人たちを運ぶ大切な足となっています。

最初の目的地：二神島へ

まず目指すのは、神ノ島と呼ばれている二神島へ。「日本古来の美しさを多く残すパラダイスの島」と呼ばれている東西に細長く小さな島である。

島内には自生のビャクシンの並木があり多くの実をつけていた。（海岸沿いに）



民家の中庭に樹齢150年を超えるサボテンの古木があると聞き、見物におとずれた。

なるほど、このような大きな樹になっておりビックリ。株元周りは3m以上に、高さは4~5mあり見上げるほどで、なぜこの様に大きくなったのか不思議です。



島の温暖な気候と雨が少なく環境にマッチしたと思われる。回りは四方を囲まれ、海風にもさらされることもなく、温室で育てられた様なもので元気にそだっていた。

島の生活は漁業を中心とし、斜面を利用したの柑橘類の栽培、僅かな平地には野菜類を植え付けてあり自給自足の生活様式であった。

島唯一の海の駅があり、小学校は休校となっており、お年寄りばかりが80人くらいの人口で、松山市から出ている島周りのフェリーが日に何便かあり日用品、食料品、薬品雑貨などがはこばれている。

続いて睦月島へ

港から見える家々では、立派な門構えの家並が海に向かって続く長屋門が見渡せます。長屋門とは、当時漁業で豊かになった家々が競って豪華な門構えの家を建てたもので、島では珍しく、主に城下町で多く見られる武家屋敷のような風情が残っており、江戸時代後期に建設されたと思われる。

また、集落から小高い丘の山の中ほどに、地元では夫婦杉と呼ばれている350年の大楠が枝を大きく広げ、株元から二股に分かれており、夫婦杉と呼ばれるようになったものとおもわれる。平地を利用した、柑橘栽培も盛んに行われて収穫の最盛期であった。

この島も学校は休校で、海の駅もあったが商品が少なく、自販機、コンビニもなく、島内でのビューポイントが5 - 6か所あり、9キロの周回道路をゆっくりと見て回りたい島である。



海岸沿いの蛸壺と長屋門

3つ目の島：北條鹿島へ

その後、船は北条市の沖合200mの北條鹿島で昼食、この海域も漁業が盛んで、タイ、ハマチなどが昼食にでており、活きの良い魚が食卓に並んでいた。この島は周囲1.5kmの小さな島で、昔は河野水軍の基地で島内には多くの句碑があり歴史と文化に彩られた島である。また、四季を問わず多くの人たちが訪れる行楽地である。



鹿島神社

春は桜、夏は海水浴、キャンプ、魚釣り等レジャー施設が整っていて、加島の名前の通り鹿が30頭くらい飼育され また、鹿島神社は博物館となっており、休憩所を兼ねた施設となっていて、近郊からの人たちで賑わっていた。

[後編につづく]

編集後記

柴田さん、忽那諸島5島めぐりの記事を投稿いただきありがとうございました。私も愛媛の出身ですが、これらの島にはまだ行ったことがなく、とても興味深い内容でした。今号では5島全てを掲載できなかったため、残りの2島（野忽那島・津和地島）は次号に持ち越します。

[植物友の会担当 久保晴盛]